

論文番号 207

担当

国税庁 醸造研究所

題名(原題/訳)

Correlation between drinkability of beer and gastric emptying

ビールの飲量性と胃排出の相関性

執筆者

Y.Nagao, H.Kodama, T.Yonezawa, A.Taguchi, S.Fujio, K.Nakahara, K.Haruma, T.Fushiki

掲載誌(番号又は発行年月日)

Biosci. Biotech. Biochem. 62 (5) 846-851, 1998

キーワード

ビール 飲量性 胃排出 超音波エコー 胃幽門前庭部横断面積 主観的評価

要旨

ビールの飲量性に関する主観的評価及び胃の膨満感と超音波エコーで測定した胃幽門前庭部横断面積との値に相関性があることを明らかにした。

9人の健常者を用いて5種類の異なるビールを2時間に渡り 3ml/kg/15 分の速度で投与し、30分毎に「にがみ」「水っぽさ」「のどごし」「胃の膨満感」「飲みたさ」「おいしさ」を主観的に評価させたところ、「のどごし」「胃の膨満感」「飲みたさ」「おいしさ」の値と30分毎に測定した胃幽門前庭部横断面積の値は高い相関関係を示した。また、胃の膨満感が最も穏やかなビールは、おいしさや多飲量性の評価が高かった。これらの結果は、胃排出速度がビールの多飲量性の要因の一つであること、胃幽門前庭部横断面積の測定がビール飲用時の膨満感を評価する方法として有効であることを示唆している。